



ハートプロジェクト
写真洗浄作業マニュアル

2011年11月1日作成

目次

1.	写真を綺麗にして元の持ち主の所に返したい	2
2.	「一枚の写真から明日への希望を」つなぐれ、ひろがれハートの輪	3
3.	供養という考え方について	4
4.	写真洗浄をするために用意するもの	5
5.	作業全体の流れ	6
6.	作業上の注意	7
	解体	8
①	準備	8
②	解体	8
	A) アルバムや写真の束	8
	B) バラ写真（まとまりから解体できた写真が5枚以下のもの）	10
	C) 要複写を含むバラ写真	10
③	選別	11
	複写	12
①	準備	12
②	選別	12
③	複写	12
	洗浄	14
①	準備	14
②	確認	14
③	洗浄	14
④	種類別洗浄方法一覧	16
⑤	水切り	16
⑥	選別	16
⑦	乾燥	17
	収納	18
①	準備	18
②	アルバム収め	18
	A) アルバムや写真の束	18
	B) バラ写真（まとまりから解体できた写真が5枚以下のもの）	19
	C) 要複写を含むバラ写真	20
③	梱包	20
7.	このマニュアルについて	21

写真を綺麗にして元の持ち主の所に返したい

「ハートプロジェクト」(写真洗浄ボランティア)とは

東日本大震災による被災で破損した思い出の写真を洗浄して持ち主にお返りする。写真の持ち主の方が津波で流された写真と再会することで、明日への活力を取り戻してもらうことを目的に活動しております。



宮城県名取市閑上で展示されている洗浄後の写真を探す方：2011年9月に撮影

「一枚の写真から明日への希望を」 つながれ、ひろがれハートの輪

ご存知のように3月11日を境に東日本の広い地域は被災により生活が一変してしまいました。連日そうした報道がなされる中、町の姿が失われた気仙沼で海水・砂・漁船の燃料・汚水にまみれ痛んだ写真を1枚1枚丁寧に拾い集め洗浄をして思い出の写真を持ち主に返したいと奮闘されている方がいらっしやることを知りました。

私は写真店（東京・目黒区）を営んでいる者として、大変感銘を覚え、その活動を何としても支援したいという一心で【思い出の写真を救おう ハートプロジェクト】を結成しました。

痛んだ写真を洗浄して持ち主へお返しすることによって、持ち主の方は撮影の当時と現実のギャップに涙するかもしれません。しかし、こぼれた涙のあとにはきっとその時の笑顔・生活・風景に戻りたいと、その写真が明日への活力を取り戻して頂けることを信じ、この活動を行っております。

この活動に参加した方からは、こんな言葉をよく聞きます。「震災以降何かしたいけど何もできない自分の無力さを感じていたが、プロジェクトに参加して、何とも言えない自分自身の心につまったものが写真の洗浄と共に流された気がします」と。この活動は、被災された方のお役に立つこととして始めたことではありますが、気がつけばボランティアで参加された方の自らの気持ちと向き合う機会にもなっていたのです。

いまこうした私たちの活動は日々、いろんな方の協力で広がりたくさんのハートを元気付けています。ぜひこの活動にご賛同いただき写真の洗浄からつながるハートの輪を広げていきたいと思っております。

ハートプロジェクト
代表世話人 高野徹也

供養という考え方について

ハートプロジェクトでは洗浄過程において、写真の画像面が腐食劣化で消えて白紙となってしまうもの、悲しみを想起させるような破損となってしまうもの、持ち主の方がご覧になっても判別できないと思われるものについては、被災地で写真洗浄を担当されている方に確認を取った上で、大変心苦しいのですが処分をさせて頂いております。その際は、せめて写真に込められた思いが報われることを祈って、お寺でお坊様に供養していただくという形を取っております。ゴミとしては扱っておりません。



写真の画像面が腐食劣化で消えて白紙となってしまうもの

写真洗浄をするために用意するもの

必要なもの

- ・作業用テーブル、台
- ・物干し用スタンドポール
- ・養生用ブルーシート
- ・水切りネット、三角コーナー
- ・ゴミ袋
- ・薄手のゴム手袋
- ・マスク
- ・タオル、雑巾
- ・はさみ、カッター
- ・カッターマット
- ・ティッシュ
- ・筆、刷毛、歯ブラシ
- ・段ボール箱（大小）
- ・セロテープ
- ・ゼムクリップ、輪ゴム
- ・付箋、メモ用紙
- ・筆記用具
- ・洗面器
- ・洗濯バサミ、ピンチハンガー
- ・荷造り用の紐
- ・ドライヤー
- ・ポケットアルバム
- ・ホチキス
- ・各種サイズのポリ袋（チャック付きのもの）
- ・ガムテープ（布、養生）
- ・メッセージカード

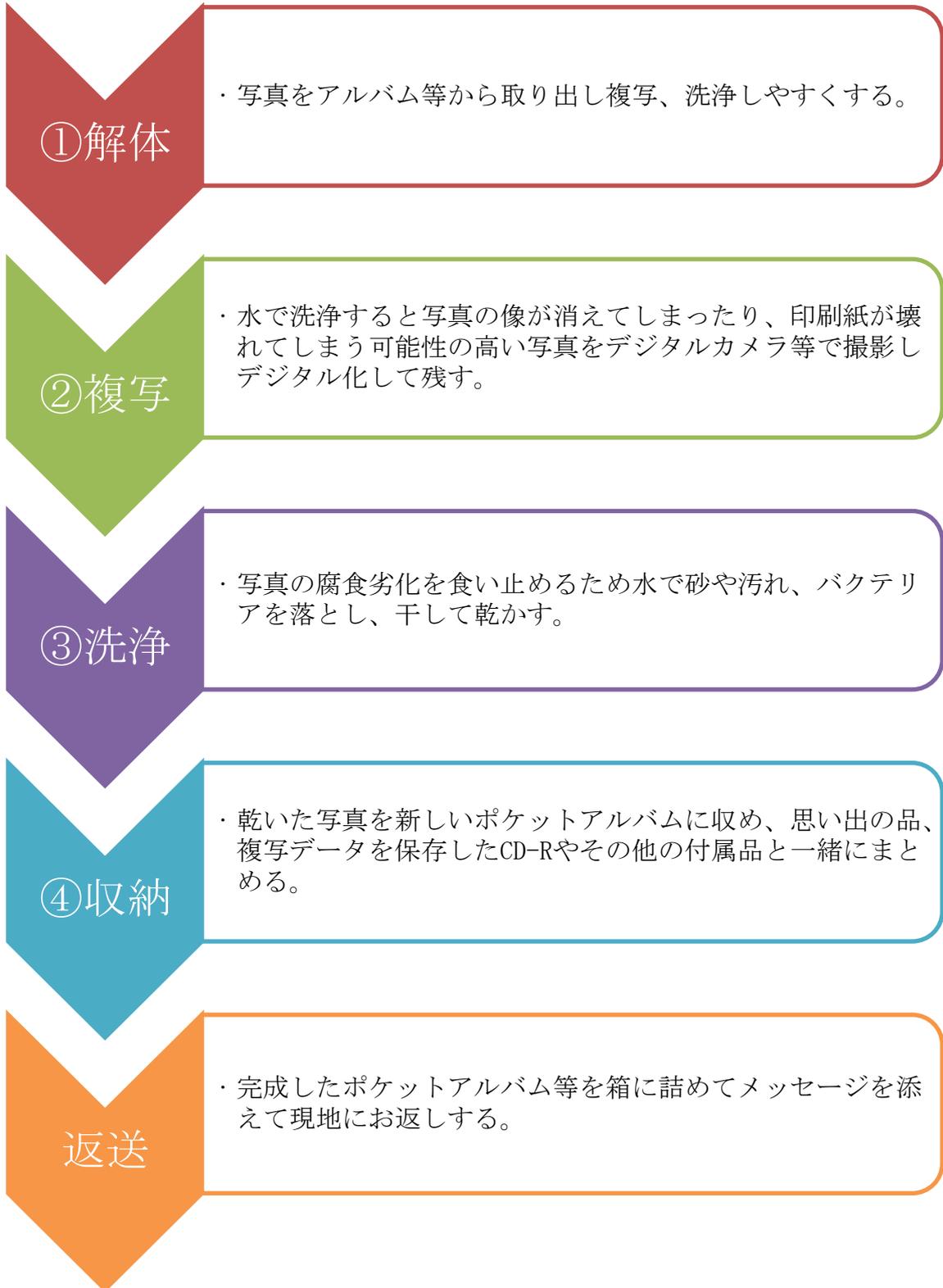
あれば便利なもの

- ・乾燥剤（アルバムの湿気を取って保管するため）
- ・衣装ケース（洗面器よりも大量に写真を洗うため）
- ・カメラ用レリーズ（手振れ防止のため）
- ・カメラ用クリーニングキット（カメラの汚れを落とすため）
- ・吸水マット（洗浄した写真の水気を切るため）
- ・扇風機（写真を早く乾燥させるため）
- ・写真乾燥機（写真を早く乾燥させるため）

複写に必要なもの

- ・複写機器（①または②）
- ・①一眼レフカメラまたはデジタルカメラ（1000万画素以上でライブビュー付が望ましい）
- ・②スキャナー
- ・真下を撮影できる三脚（エレベーターポールの下部に雲台を取り付ける事が出来るタイプが望ましい）
- ・コピー用紙や白い厚紙（複写の際下敷きや反射光の調節に使用する為）
- ・無反射ガラス
- ・PC
- ・データ保存用CD-R

作業全体の流れ



作業上の注意

- 写真が持ち主に戻らなくなってしまうので、絶対に他の持ち主のアルバム等の写真と混ざらないように注意すること。
- 分担作業になる為、次の作業工程の方が、何をすればよいのか、何に注意するのが解るようなメモを残し、また口頭で説明する等、写真の取り扱いについて不明なことがないようにし、どうすればよいのかよくわからない写真を絶対につくらないこと。
- 作業をする際は必ずゴム手袋・マスクを着用すること。
- 刃物を扱うときは誤ってケガをしないよう気をつけること。
- 物が散乱すると写真や道具の紛失が起きやすくなるので整理整頓を心がけ、作業し易い環境を意識すること。
- 被災地域毎に写真の管理や取り扱い方法が異なるためよく確認すること。
- 没頭し易い作業となるため適宜休憩を取る事。

解体

① 準備

1. 養生用ブルーシートで作業場の床などを養生する。
2. 作業用テーブル、台を養生用ブルーシートやゴミ袋、段ボールなどで養生する。
3. 段ボールを使い易いサイズにカットしカッターマットを作成する。



4. メモ用紙などで番号札を2枚作成する（1,1 2,2 A,A B,B等）。

※番号札を手書きで作成するときは番号がダブらないように注意する。また、番号札は返送の際に段ボールに詰めるまで写真のまとまりとセットで作業をするので、絶対途中で捨てないこと。



5. バラ写真と要複写バラ写真をストックしておく箱を用意する。



6. 解体は被災地より送られてきたものを以下の順に行っていく。
※バラ写真をストックする際は地域が混ざらないように注意する。
 - A) アルバムや写真の束
 - B) バラ写真（まとまりから解体できた写真が5枚以下のもの）
 - C) 要複写を含むバラ写真

② 解体

- A) アルバムや写真の束

1. 写真のまとまり（アルバム、写真の束）を1つ選んで小さい箱等に入れ、番号札を1組（1,1等）セットにする。

2. アルバムに表紙がある場合は、表紙が持ち主への重要な手がかりになるため切り取って可能な限り残す。

3. アルバム台紙やポケットアルバムからハサミやカッター等も用いて写真やメモなどを取り出し複写、洗浄しやすくする。

※取り出した写真の裏面に台紙が付いている場合は洗浄しやすくするため可能な限り取っておく。

※写真同士がくっついている際は、写真表面のゼラチン質が水でふやけ糊状になりくっついている可能性が高いので、洗浄の際に再度、水に浸しふやかして水中で慎重に剥がすため、解体時には無理に剥がさない。



4. 写真表面のフィルムを写真の像が強く残っている方から崩れて弱くなってしまっている方へ慎重に剥がす。



※フィルムを剥がす際、以下の状態のものは無理にフィルムを剥がさず複写するため、フィルム表面や内側の汚れをブラシやタオル等で落とししておく。フィルムを剥がせたが複写した方がいいものも汚れを落とす。



- ・写真の像が流れてしまうものや、赤や黄色の痕が出てきた場合。
- ・フィルムに写真の像が移ってフィルムと写真紙で 1 枚の状態のもの。



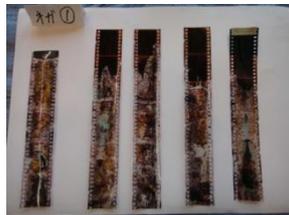
【可能な限り綺麗な状態で複写する理由】

- ・複写データをもとに再プリントした際の写真の状態をよくするため。
- ・今後、データによる修復を考えたとき、写真表面に砂や泥汚れなどが付着し、写っているものを覆い隠してしまっているとデータ上での修復作業が難しくなるため。

※ハートプロジェクトでは行っていませんが、写真のデジタルデータを修復して再プリントしているボランティア団体があります。

5. ネガはシートごとにフィルムを剥がして取り出しまとめておく。

※汚れがあってもネガが傷つくためタオルなどで拭いたりしないで、洗浄の際に水ですすぐだけにする。



6. アルバム表紙や写真以外の思い出の品（手紙や年賀状等）もタオルやブラシ等で可能な限り汚れを落とす。



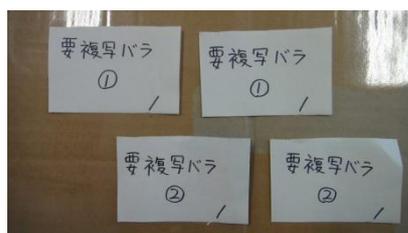
7. 解体中に、アルバムや写真裏側などに持ち主の方に繋がりそうな手掛かり情報（書き込み、人名、地名等）があれば可能な限り現物を残し、やむを得ず残せない場合は情報をメモに残しておく。

B) バラ写真（まとまりから解体できた写真が5枚以下のもの）

1. 写真を取り出す。※解体方法等はアルバムや写真の束の際と同様。
2. バラ写真（まとまりから解体できた写真が5枚以下のもの）はその最小のまとまりを崩さないように洗濯バサミでとめてバラ写真をストックしておく箱に入れておく。

C) 要複写を含むバラ写真

1. 写真を取り出す。※解体方法等はアルバムや写真の束の際と同様。
2. メモ用紙等で2枚組の要複写バラ番号札を作成する（要複写バラ1, 要複写バラ1 要複写バラ2, 要複写バラ2 等）。



- 要複写を含むバラ写真はその最小のまとまりを崩さないように、要複写バラをつけ、複写するものには「要複写」のメモをクリップで挟み洗濯バサミでとめて要複写バラ写真をストックしておく箱に入れておく。



③ 選別

- 解体が完了した箱の中で複写や洗浄する（残す）写真と供養する写真を選ぶ。

※供養についてはP.4をご覧ください。

【供養する写真の例】

- ・写真の画像面が腐食劣化で消えて白紙となってしまったもの。
- ・悲しみを想起させるような破損となってしまうもの。
- ・持ち主の方がご覧になっても判別できないと思われるもの。

- 供養する写真は作業場で一カ所にまとめて管理しておく。
- 複写する写真は「要複写」と記入したメモと一緒にビニール袋や洗濯バサミでまとめ、箱の中で洗浄する写真と区別し分かるようにしておく。



- 洗浄する写真は写真の種類によって洗浄方法が異なるため、P.17の『種類別洗浄方法一覧』を参考に種類ごとにまとめ仕分けをしておく。

※水で洗浄すると写真の像が消えたり、印刷紙が壊れたりしてしまうものは複写する。

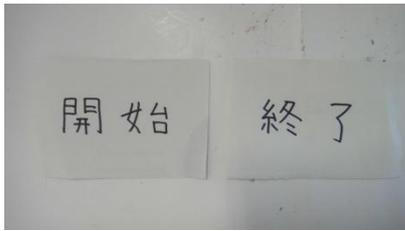
複写

① 準備

1. デジタルカメラ（複写機器等）をセッティングする。



2. 「開始」、「終了」と記入したメモ用紙を作成する。



3. 真下に置いた写真に対して水平かどうか確認する。

※デジタルカメラの場合。

② 選別

1. 再度、解体作業で「要複写」となった写真から、洗浄に回せるものと複写する必要があるものに精査する。
2. 以下のもののように写真表面のフィルムが剥がせ水で洗えそうなものについては可能な限りフィルムを剥がす。少しでも不安に思う写真は複写する。

- ・像を流さずに剥がせたもの。
- ・赤や黄色の痕を出さずに剥がせたもの。

※赤や黄色の痕が出たところは写真の層が傷ついて弱っているところなので、水で洗浄した際、写真の像が流れる可能性があります。

③ 複写（デジタルカメラを用いる場合）

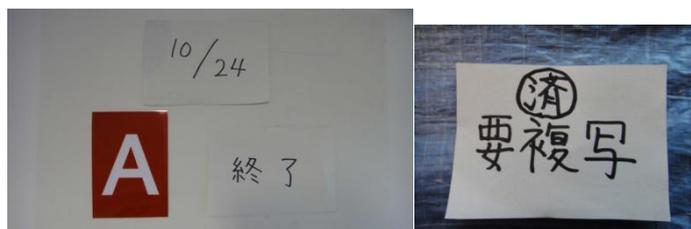
1. 「番号札」と「開始」と「作業日」を複写する。



2. 下敷き用のコピー用紙または白い厚紙の上に写真を乗せ無反射ガラスで押さえて複写する。

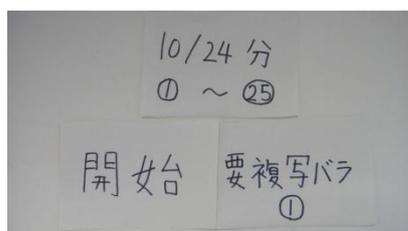
※写真は可能な限り大きいサイズでデータを残すようにする。また、データを整理しやすくするため、複写する際はファインダーやライブビュー画面に、ヨコの写真は頭が上になるよう、タテの写真は頭が左になるように写真の向きを合わせて複写する。

3. 「番号札」と「終了」を複写する。
4. 複写が全て終了したら「要複写」のメモに「済」と記入する。

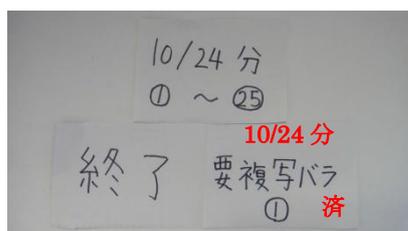


【要複写バラ写真を複写する際に注意すること】

1. 「要複写バラ番号札」と「開始」と「作業日」を複写する。



2. 下敷き用のコピー用紙または白い厚紙の上に写真を乗せ無反射ガラスで押さえて複写する。
3. 「要複写バラ」と「終了」を複写する。



4. 複写が全て終了したら「要複写バラ番号札」のメモに「済」と『〇/〇日分』の日付を記入する。

洗浄

① 準備

1. 洗浄作業をする台、テーブルとその下も必要があれば養生する。
2. 洗面器に水を張る。
3. 刷毛や筆を用意する。
4. 水で洗えないものの汚れを落とすブラシやタオルを用意する。
5. 水気を切るためのタオルを用意する。
6. 段ボールをカットしタオルを敷いて乾かした写真を運ぶ台のようなものを作成する。
7. 排水溝にも必要であれば三角コーナーや水切りネットをセットする。
※水をそのまま流せるかどうかを確認しておく。海水の塩分やアルバム台紙の糊やゴミが入っている水をそのまま流すとシンクが錆びたり、排水溝が詰まるので、直接水がかからないようにビニールで養生したり、水切りネットをした三角コーナーを通して水を捨て、ゴミ類が直接排水溝に流れないように注意する。
8. 荷造り用の紐に洗濯バサミを通す。
9. 洗濯バサミを通した荷造り用の紐を物干し用スタンドポールに結んで写真干し場を設営する。



② 確認

1. 「番号札」を確認する。
2. 複写が済んでいるものかどうか確認する。

③ 洗浄

1. 水を張った1つ目の洗面器で写真に付いた海水、泥や砂・バクテリア・カビ等を落とす(1層目)。

2. 先ず、支えている手で気づかずに写真表面を傷つけないよう、写真表面を内側にして筒状に丸めて1層目の水に浸け、手のひらで写真裏面の汚れを落とす。



3. 次に、写真の損傷がどの程度のものか感じながら、四隅や周辺部を外側に向かって指の腹でやさしく洗う。



4. 最後に、中心部の汚れを落とすようにする。

※指で触れると顔が消えてしまう写真は筆や刷毛を利用し慎重に洗浄する。極力、顔を残したいので、どうしても難しい場合は無理には洗わない。



5. 水を張った2つ目の洗面器で取り残してしまった汚れを落とし写真をすすぐ(2層目)。

※基本は以上の手順で洗浄を行うが、写真の種類ごとに洗浄方法が異なるので、次のページの種類別洗浄方法一覧を参考に各特徴に注意する。

④ 種類別洗浄方法一覧

※写真の状態により洗浄方法が適切でない場合もあるため柔軟に対応すること。

種類	洗浄方法
銀塩写真（写真店で現像された一般的な写真）	比較的、水に強いため基本的な洗浄方法である程度普通に洗える。
インクジェットプリント	水溶性インクが水に弱く滲みやすいため、水に浸たす時間を短くし、素早く洗浄する。
ポラロイド・チェキ等のインスタント写真	水には直に浸けずに濡らしたタオル等で表面の汚れをふき取る。
モノクロ・セピア	印刷紙が弱い場合が多く、水に浸す時間を短くし、素早く洗浄する。フィルムを剥がすことが難しい場合は水には浸けずに濡らしたタオル等で表面の汚れをふき取る。 ※印刷紙の種類によって水洗いできない場合もあり、扱いが異なる事が多い。
ネガ	水ですすいで汚れを落とす。
紙類（手紙等）	水に浸けずに、タオルで乾拭きや、ティッシュ、歯ブラシなどを利用し汚れを落とす。
その他（アルバム表紙等）	材質によって洗えるもの、水拭き・乾拭きするものをわけながら対応する。

※インクジェットプリントの見分け方例

- ・水に浸かり写っているものの輪郭周りのインクが薄い赤や緑ににじんでいる。
- ・写真印刷紙裏面に EPSON や CANON 等のプリンタを作っているメーカーのロゴが入っている。

⑤ 水切り

1. 洗浄した写真を運び台の上に置き、写真表面を上から優しくタオルを当て水気を切る。

⑥ 選別

1. 洗浄で供養となってしまった写真をわかる。
※要複写バラ写真は数が少ないため洗浄をした際、写真が全て供養となってデータのみ残る可能性が高い。全て供養となってしまった場合は「要複写バラ番号札」に複写データのみ残っていることを明記し、作業責任者に伝え、後で写真をポケットアルバムに収める際 CD-R しかなく写真が見当たらないといった状況にならないよう注意する。

⑦ 乾燥

1. 干す写真の枚数を確認し干し場を確保する。
※直射日光に長時間当てるのは避け陰干しが望ましい。
2. 初めに管理確認用番号札を1枚挟む。
3. 番号札の次の洗濯バサミに写真の四隅を挟むようにして干していく。
4. まとまりの最後にもう一つの番号札を挟む。

※写真を干す際は写真同士がくっつくのを避けるため表面を向き合わないよう揃えて、2枚の番号札の間に干していく。



【確保していた干し場に干しきれなかった場合や洗濯バサミに干せない大きいアルバム表紙や付属品類の取り扱い】

※他に続きがあることが解るようメモ等に明記して他の場所に干す。

例：1（床にアルバム表紙があります。）、1（このアルバム表紙の写真が干してあります。）等。

※回収する際に取り忘れがないよう他の方が見ても確実に分かるようにしっかりメモを書いておく。

収納

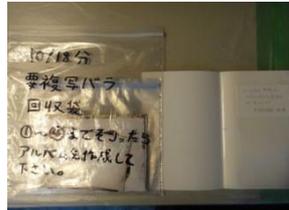
① 準備

1. 「番号札」の写真のまとまりが乾いているか確認して回収する。
※他の場所に干している写真の続きを取り忘れないよう注意する。
2. 乾き切っていないものがあつたらドライヤーなども利用する。
※近くで温風を当てすぎると写真が痛むので少し離して温風を当てる。
3. 表紙を丸などにくり抜いて窓を作ったポケットアルバムを作成する。
4. メッセージカードを用意する。
5. 各種サイズのポリ袋を用意する（チャック付きのもの）。



【要複写を含むバラ写真の回収方法】

1. 『○/○』分の要複写バラ写真のまとまりがいくつあるか確認する。
2. 要複写バラ写真回収袋を作成する。
3. まとまりが全て揃ったらアルバム収めを始める。



② アルバム収め

A) アルバムや写真の束

1. 表紙を丸などにくり抜いて窓を作ったポケットアルバムを1冊目に使う。
※2冊目以降は窓をくり抜いていない普通のポケットアルバムの表紙と1冊目のポケットアルバムの裏表紙の四隅をホチキスでとめて繋げる。



2. 窓から見える1枚目のポケットに持ち主が気づきやすい写真を入れる。
3. その次の2枚目のポケットにメッセージカードを差し込む。



4. 解体前のアルバムや写真裏側に記載のあった持ち主に繋がりそうな手掛かり情報（書き込み、人名、地名等）をポケットアルバムの表紙に転記する。
5. 大きいサイズの写真は、ポケットアルバムの上下ポケットの仕切りの糊付けを外し縦入れられるものはできる限り入れ、入らないものはビニール袋で一つにまとめる。
6. 小さいサイズの写真は、抜け落ちてしまうのを避けるため無理にアルバムに入れず、ビニール袋で一つにまとめる。
7. 同じ番号札のもの（ポケットアルバム・アルバムの表紙、大小の写真をまとめた袋、ネガ、付属品）を全て一つのビニール袋にまとめる。



B) バラ写真（5枚以下のもの）

1. 窓を作っていない普通のポケットアルバムを1冊目に使う。
2. 1枚目のポケットにメッセージカードを差し込む。
3. 2枚目のポケットから写真を入れていく。



4. 解体前のアルバムや写真裏側に記載のあった持ち主への手掛かり情報（書き込み、人名、地名等）をポケットアルバムの表紙に転記するため、区切りのいいところで写真を入れるのをやめ1冊ずつ仕上げる。
5. ～7. までアルバムや写真の束と同様。

C) 要複写を含むバラ写真

1. ～2. までバラ写真（5枚以下のもの）と同様。
3. 2枚目のポケットに、先ず「要複写バラ番号札」を開始目印として差し込み、次に写真を入れていき、最後に「要複写バラ番号札」を終了目印として差し込みこれを繰り返す。

※写真では要撮となっているがこれは要撮影の略称で、要複写と同義。



4. ～7. までバラ写真（5枚以下のもの）と同様
8. ポケットアルバムに入っている「要複写バラ番号札」分の写真の複写データをまとめて1枚のCD-Rを作成し最終ページにテープとホチキスで固定する。



③ 梱包

1. アルバムや写真の束から作成したポケットアルバムの番号札と複写データを保存したCD-Rを番号札の対応を確認して、CD-Rを番号札と交換する形で封入する。
2. ビニール袋の空気を抜きできるだけコンパクトに返送用の段ボールに梱包する。

このマニュアルについて

私は今ですら、あんな人がいたな、こんなことがあったなと、昔の写真やアルバムを見なければ思い出せないことがあります。でも、被災地の方々は、その写真やアルバム自体が本当に消えつつあります。もし、自分の写真が一枚もなくなってしまったら、それはなんて切ないことなのだろう、そう思ってハートプロジェクトに参加しました。

ハートプロジェクトは写真洗浄という活動をしておりますが、写真以外のものにもたくさん触れてきました、日記や手紙、年賀状、旅行のチケット等、誰かが残したいと思ったからここにある、そういった思い出の品をできることなら全て持ち主のところへお返ししたい、その一心でこのマニュアルを作成しました。

このマニュアルはハートプロジェクトの活動を通じて得られた情報、知識や経験を基に、参加者の皆様のご提案やご協力のおかげで作成することができたものですので、他の団体等で写真洗浄に携わっておられる方々と、考え方や作業方法が異なるかもしれません。

また、私どもも日々改善を心がけてはおりますが、写真の状態によって対応が千差万別なため、このマニュアルに記載した方法が確実なものではないことも承知しております。

しかし、被災地の方々の大切な思い出の写真を一枚でも多く救うために、このマニュアルを配布致します。必要に応じて加筆修正していただき、ここにまとめた内容が、思い出の一つの形である写真を綺麗にして持ち主に返したいと、考え活動されている全ての方々に、少しでもお役にたてば幸いです。

そして私自身、写真洗浄はもう要らないと言われるその最後の時まで活動に携わっていくことは叶わないかもしれませんが、たとえ私ができなくとも写真洗浄を必要とされる方がおられるのならば、どこかで誰かが何らかの形で写真洗浄という活動を継続させねばならないと考えております。後に続く方々が、より良い方法で写真を残して頂ければと願っております。

最後に私は、事情があつて被災地外に写真洗浄を依頼することが難しい方や、手元に写真があつてもどうしたらいいのかわからない方にも、このマニュアルが届いて欲しいと思っております。このマニュアルをご覧になった方々に一つお願いがございます。私が届けることはできない、今困っている方々の元へ、このマニュアルをお届けくださいますようお願い申し上げます。

2011年11月1日
ハートプロジェクトチーム
二宮 良太